

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第2部門第5区分
 【発行日】平成23年5月26日(2011.5.26)

【公開番号】特開2010-76604(P2010-76604A)
 【公開日】平成22年4月8日(2010.4.8)
 【年通号数】公開・登録公報2010-014
 【出願番号】特願2008-247388(P2008-247388)
 【国際特許分類】

B 6 2 K 25/20 (2006.01)

B 6 0 T 8/171 (2006.01)

G 0 1 P 1/02 (2006.01)

F 1 6 H 57/02 (2006.01)

【F I】

B 6 2 K 25/20

B 6 0 T 8/171 A

G 0 1 P 1/02

F 1 6 H 57/02 3 0 2 G

【手続補正書】

【提出日】平成23年4月11日(2011.4.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

パワーユニット20の側面図である図2を参照して、パワーユニット20の上部では、内燃機関30の大きく前傾したシリンダヘッド33の上部から吸気管23が延出して後方に湾曲し、同吸気管23に接続されたスロットルボディ25がシリンダブロック32の上方に位置し、同スロットルボディ25に連結管23cを介して連結されるエアクリーナ26が支持ブラケット29の前方でベルト式無段変速機80の上方に配設されている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

図3を参照して、左クランクケース31Lの前部と右クランクケース31Rとの合体による所謂クランクケース内には、クランクシャフト40が左右クランクケース31L, 31Rの各側壁に左右の転がり軸受である主ベアリング41, 41を介して回転自在に支持されている。

クランクシャフト40の左右水平方向に延びた外側軸部のうち右外側軸部にはカムチェーン駆動スプロケット44とオイルポンプ駆動ギヤ45が一体に回転可能に嵌着されるとともに、右端にACジェネレータ70が設けられ、左外側軸部にはベルト式無段変速機80の遠心ウエイト82と駆動プーリ85が設けられる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0046

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 6 】

この固定プーリ支持スリーブ92の外周には、可動プーリ支持スリーブ93が外装され、可動プーリ支持スリーブ93に軸方向に長尺に形成された長孔93hに固定プーリ支持スリーブ92に突設されたガイドピン94が嵌合して、可動プーリ支持スリーブ93は固定プーリ支持スリーブ92に対して軸方向に相対移動できるが、相対回転は規制されている。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 6 0

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 6 0 】

以上のようなパワーユニット20において後部の減速ギヤ機構110は、伝動ケース（左クランクケース）31Lの後側外周壁31Lsと減速ギヤカバー111により左右半部を覆われており、後車軸大径ギヤ114の外周囲を覆う伝動ケース31Lの後側外周壁31Lsの後車軸大径ギヤ114の上方部位に駆動輪速度センサ200が取り付けられている（図2，図3参照）。

【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 6 8

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 6 8 】

また、車両の停車中に盗難防止のために、後輪21のスポーク間にU字形状をした盗難防止用のU字ロックを取り付けたとき、U字ロックを取り付けたまま誤って車両を動かした場合、U字ロックは後輪21の回転により後輪21との係止端部が後車軸115に近づきながら持ち上げられて自由端部が下方に下がるので、U字ロックの係止端部がまず後側保護壁150の外周保護壁152の後面に斜めに当り、同後面を上方に滑りながら移動して逃げることができるため、衝撃力が吸収されて衝撃が小さくてすみ、U字ロックが駆動輪速度センサ200に直接当らずに、後側保護壁150が駆動輪速度センサ200を保護することができる。

【 手 続 補 正 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 7 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 7 4 】

また、左側壁160lは上端縁が上壁160uの前側上壁160ufと後側上壁160ubに沿って山形状に形成され、後端縁が平板状保護壁151の前面に当接し、下端縁が伝動ケース31Lの左側外周壁31Ltの上面に当接する。

そして、前側上壁160ufの凹部160vより右側部位と右側壁160rとが、L字に連続した状態で前方に長尺に延出して長尺側壁160rrと長尺上壁160uuを形成している。

【 手 続 補 正 7 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 8 9

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 8 9 】

また、車両の停車中に盗難防止のために、後輪21のスポーク間にU字形状をした盗難防止用のU字ロックを取り付けたとき、U字ロックを取り付けたまま誤って車両を動かした場合でも、U字ロックは後輪21の回転により後輪21との係止端部が後車軸115に近づきながら持ち上げられて自由端部が下方に下がるので、U字ロックの係止端部がまず後側保護壁205の後面に斜めに当り、同後面を上方に滑りながら移動して逃げることができるため

、衝撃力が吸収されて衝撃が小さくてすみ、U字ロックが駆動輪速度センサ200に直接当らずに、後側保護壁205が駆動輪速度センサ200を保護することができる。